留学体験記

人文学部　鈴木一会

初めて「英語」という他国の言語を意識したのは小学 4 年生の頃だったと記憶しています。それまでも保育園やテレビなどで触れてはいたのでしょうが、英語をひとつの言語として認識するようになったのは『ハリー・ポッター』シリーズを読み始めてからのことです。同じころに「くもん」で英語を始め、中学校では先生に発音を褒められて調子に乗り、高校一年生の夏休みに学校主催の英語研修(3 週間ほど)に参加しました。さらに大学主催の短期留学への参加を経て、私にとって①ひとりで②長期の留学をすることは大きな目標になっていたのです。

留学の目的としては、まず英語の向上がありました。日本語という逃げ場がない環境でちゃんと生きていき、不自由なく周りの人とコミュニケーションがとれるようになること。さらに、留学すること自体も目的だったと思います。家族や友人と離れひとりで外国で生活することはたしかに怖くもありましたが、それ以上に魅力的だったのです。

私はニューブランズウィック大学セントジョンキャンパスの寮で生活していました。図書館以外の大学の建物はすべて渡り廊下やトンネルで繋がっていて、雨の日も雪の日も寒い日も移動に困ることはほとんどありませんでした。私のいた寮はほとんどが一人部屋で、男女・現地学生・留学生が混在していました。最初は驚きましたが、そのぶんいろいろな友人ができたと思っています。

履修した講義は現地の学生と同じもので、「心理学」「英語学」「比較文学」「言語学」の 4 つです。予習をどっさり要求する講義や週 2 回、3 回ある講義が多く、毎日それなりに忙しかったです。私は質問などのためにしょっちゅう教授を訪ねましたが、どなたも毎回丁寧に付き合ってくださったので授業への不安はそう大きくはありませんでした。とはいってももちろん、カナダの学生と同じように、というわけにはいきません。特に少人数でディスカッション中心の比較文学の講義ではほとんど発言ができず、出席するたびに憂鬱な気分になった時期もありました。しかし、多くの友人や先生方に助けられてなんとか無事に 1 セメスター乗り切った、と思っています。

留学中特に印象に残ったことですが、知らない人との間に壁がないことを挙げたいと思います。寮に入って 5 分でカナダ人の友だちができましたし、その 30 分後には彼女の家族と街へ出かけました。それから毎日のように新しい友人が増え、2 週間後には友だちのボーイフレンド（初対面）の誕生日会に参加したりしていました。ほとんど初対面が 3 人集まって夕ご飯を食べに街に出たこともあります。私はかなり人見知りするほうなのですが、あちらではそういう概念を持つのがかえってばかばかしく思えました。そんな距離感のせいか、友人の家で晩ごはんをご馳走になったりサンクスギビングやクリスマス等の家族のイベン

トに招待してもらったりも多く、たった 4 か月でしたが想像以上に濃い時間を過ごすことができました。特に文化に深く根付いた行事に参加できたことは素晴らしい経験で、フレンドリーなカナダ人のなかでも特に友人に恵まれたのだと思います。

最後に交換留学を薦める理由について。まずは英語の上達を挙げます。当然ですが留学中は、日常会話や講義はもちろんありとあらゆるコミュニケーションを英語で行います。風邪をひいて学生クリニックに行くとき、部屋の水道が詰まったとき、お店で在庫を確認してもらうときなどなど、日本語で相談したり確認したりはできません。話せなければどうにもならないので自然とスピーキング力は向上します。毎日のように英会話にさらされるので徐々に耳も慣れてきます。リーディング力やライティング力は、教科書を読んだりレポートを作成したりするうちに目に見えて伸びていくでしょう。特に単語のニュアンスがなんとなくわかるようになるのが大きいです。大学主催のカナダサマーセミナーなど短期の留学でもこれらは実感できると思いますが、日本語から離れ現地の学生に混じって生活するなかで身につく英語力は短期のそれの比ではありません。

次に、新しい経験ができることを挙げたいです。私は往路と復路で 1 回ずつトラブルに巻き込まれました。往路では入国がうまくいかず乗り継ぎに失敗しました。不安でパニックになりそうでしたが、偶然会った日本人留学生に助けられなんとか解決しました。復路では飛行機が欠航になり帰りが丸一日遅れ、航空会社と宿泊場所の交渉を行いました。なんとか主張を受けいれてもらい、むしろ予定外の一泊を楽しく過ごすことができました。これは想像に過ぎませんが、4 か月間積み重ねてきた初経験や初体験が私に自信と余裕を与え、そのためにこのような差が生まれたのではないかと思います。もちろん新しい経験ができるのは留学だけではありませんが、最低 1 セメスターの交換留学が非常に新鮮で刺激に満ちたものであることは保証できます。

留学には当然お金と時間がかかります。英語要件を満たすためにやる気と努力も必要かもしれません。しかし、留学への態度次第でどれだけでも得るものがあるはずです。私の体験記を読んで留学への刺激としてくださる方がいれば光栄です。

最後になりましたが、経済的にも精神的にも支えて送り出してくれた家族、様々なサポートをしてくださった留学交流推進課の方、相談に乗ってくださった先生方、助けてくれた友人たち、その他すべての関係者に感謝します。ありがとうございました。

St.George のブルーベリー畑

Sir. James Dunn 寮